

マウスガードの外傷予防効果に関する前向き大規模調査用紙について

日本スポーツ歯科医学会学術研究委員会

【調査の背景と目的】

2008年のFDIの提言にもあるように、マウスガードがスポーツ活動時の外傷予防に有効であることについては言をまたない事実である。しかしながら、このことに関して報告が数多くあるにもかかわらず、統計的な分析をともなった十分な科学的根拠が少ないことも事実である。

その最大の理由として、倫理的な観点からリスクを伴う可能性がありながらマウスガードを装着させないというコントロールを設定した介入研究ができないことが挙げられる。また、定量的に分析することのできないアンケート項目を使用している、後ろ向きの調査である、どのようなマウスガードを装着しての結果が不明である、なども原因となっている。

そこで本学会では、学会で共通のアンケート項目を作成し、これを会員がカスタムメイドマウスガード（以下MG）を提供する場合に使用してもらうことにより、学会規模でのデータベースとし、MGによる外傷予防効果のエビデンスを構築することを準備してきた。2009年度にはアンケート項目案を提示し、会員からの意見を参考に最終案を作成し、試行を実施した。

本年度から本格実施することになっている。

【調査用紙の作成】

本調査用の特徴は

- Visual Analog Scale (VAS) を用いて数値化できるようにする。
- MGの使用時間が分かるようにする（単に使用してる、いないではなく）
- MGを使用するか否かは本人の意思で決めさせる。その結果として常時使用群、時々使用群、非使用群などに分けることができるので倫理的な問題を生じない。
- 目的変数を外傷の発生として、多変量解析を行うので、多様なスポーツの結果を含めて分析できる。

【調査用紙の使用方法】

- MGを製作する前に、事前のアンケート調査を実施する。（本アンケート項目以外に独自の項目を追加されることは自由です。）
- MGを製作・調整し、提供する。
- 3～6ヶ月（できればワンシーズン後）に事後のアンケート調査を実施する。

【結果の分析方法とその利用について】

- 学会員あるいはグループでデータをとりまとめて表形式のデータとして学会本部にメールで送付する（個人を特定できないようにすること）（2011年2月まで）
委員会にて統計分析して結果を返送。
他のアンケート項目とともに学会で発表あるいは論文で公表すること可能。
- 上記会員からのデータを学会本部でまとめて分析し、学会としての大規模調査データとして公表予定。

参考文献

FDI policy statement 2008: Sports mouthguards:
<http://www.fdiworldental.org/content/fdi-policy-statements#s>